

# 館報

No.24

1981.6.

徳島大学附属図書館

私の図書館利用  
芽ぶきはじめた  
図書館の電算化  
図書館研究集会開催

## 私の図書館利用

本多 浩

「ふるさととは遠きにありて思ふもの／そして悲しくうたふもの」で知られる、詩人・小説家、室生犀星の年譜を作成中でその資料蒐集のために各図書館を歩き廻っている。明治22年、石川県金沢市で生れた室生犀星は、高等小学校を中退し、裁判所の給仕となり、上司の手ほどきで俳句に親しみ、やがて上京、青春放浪をつづけた。大正7年、詩集『愛の詩集』『抒情小曲集』を刊行、つづいて小説「幼年時代」「性に眼覚める頃」を書き作家として文壇に登場、昭和期には「あにいもうと」を発表、文壇に独自の世界を作り、戦後は随筆「女ひと」小説「杏っ子」「かげろふの日記遺文」等を発表し、昭和37年に没した。その生涯をあとづけているわけである。

犀星の父は小島弥左衛門吉種といって150石の加賀藩士であった。金沢市立図書館蔵の小島家「先祖由緒書并一類附帳」には吉種の系譜が記されている。これは吉種が明治3年10月、士族長に提出されたものである。

私儀小島故弥五郎摘子ニ御座候処文久3年4月13日亡父弥五郎儀隠居仰付隠居料拾人扶持持被下之私儀家督無相違百五拾石相続被仰付……

同館にはまた「加賀藩諸士系譜」があり、これにも小島家の系譜が記されている。同館には明治期金沢で発行された「聖教新聞」「北陸新聞」のマイクロがある。犀星が俳句に親しみ投稿、句会に出席したことが、これら新聞を見ると分る。1年分を見るのに1日では無理で、眼が痛くなるが関連記事を見出したときは嬉しい。

北陸俳人大会、北声会、月出会の合同主催にかかる北陸俳人大会は一昨日午後1時より緑風風清き金谷館に於て開会……来り会せしもの……当地より紫影、洗耳洞、……犀星、南圃……30余名出席。

このようにして生涯の足跡が明らかになってくる。

石川県立図書館には、金沢で発行され、現在もつづいている「北国新聞」のマイクロがある。現在知られている犀星の活字になった初めての俳句は同紙、明治37年10月8日にのっている。

#### 水郭の小林紅し夕紅葉

年譜作りにはこうした図書館だけではなく、学籍簿などもまた貴重な資料である。犀星は明治28年9月3日、金沢市野町尋常小学校に入学した。野町小学校には当時の学籍簿がある。入学日、卒業日、欠席日数など明らかになる。また、裁判所の給仕となった資料としては金沢地方法務局蔵「金沢地方裁判所職員録」（手書きのものである）にその名が見られる。明治38年12月20日現在、犀星の名は金沢地方裁判所、金沢区裁判所の雇の最後に記載されている。

金沢には県立、市立の他に石川近代文学館がある。ここは昭和43年の開館で金沢出身の作家、泉鏡花、徳田秋声、室生犀星をはじめ第四高等学校ゆかりの地として井上靖、中野重治ら金沢に関わる詩人、作家の資料を収集所蔵している。階上には犀星の書齋が復元されている。書籍、雑誌だけでなく原稿、遺品、書簡等々を所蔵する。

私がよく行く東京駒場公園内にある日本近代文学館もこのように単なる図書館ではなく文学センターとしての色彩を持っている。昭和42年4月、日本近代文学の専門図書館として開館、50万冊を所蔵できる書庫、資料庫などの図書館としての設備のほかに展示場、講堂、研究室などがあり、近代文学を研究する者にとっては宝庫である。

現在、新聞はマイクロ化がすすんだが、十数年前は明治の新聞は東京大学の明治雑誌新聞文庫でしか見ることができなかった。ここは明治期の新聞、雑誌では国立国会図書館に次ぐ、あるいは匹敵する資料を所蔵している。徳島に赴任する以前にはよく通った思い出の場所である。

1冊の雑誌を求めて今日も通う。前橋市立図書館に前橋出身の詩人、萩原朔太郎関係の資料を収集している。朔太郎は犀星の無二の親友である。「Le Prism」という大正5年4月に創刊された雑誌は同館にしかない。発行人は犀星である。2号には詩「リンデンの葉の議論」を寄稿している。

古典のように国宝とか重要文化財とかいったものでなく、用のない人にとってはゴミ同様なものの中から資料を捨け集めて1人の生涯の足跡をあとづけるわけである。勿論、国文学は年譜作りを終始しているわけではないが、作家研究の基礎研究としてはかかすことはできないので各々の図書館を歩き廻っている次第である。

### ~~~~~ 出版物をご寄贈下さい ~~~~~

最近、学内の学会等で出版している雑誌の論文複写依頼がふえておりますが、図書館に備付けてないものが多く、要求に応じられない場合があります。できましたら出版の際、図書館にご寄贈願ひ、広く利用させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

# 芽ぶきはじめた図書館の電算化

当館の電算化検討グループは昨年末でもって、検討委員会設置ということで発展解消となり、現在は上記委員会の規約、組織案をたてているところですが、その矢先に学術情報センターシステム開発調査概要（昭和55年度）が文部省情報図書館課から発表されました。

センター館以外の大学図書館は端末機を設置し、データの入力、出力をするこのシステムでは学術情報の検索はもちろん、現在整理目録業務で苦勞している担当者にとってはその省力化を推進する待望のシステムといえると思うのです。

このようなシステムの発足と共に各端末を設置する館では、人まかせの機械操作でことが済むと考えていた館員にとっては大きなショックとなるのではないかと考えます。すなわち、めいめいが端末に積極的に関与しなければならなくなるからです。

こうしたことになると予想したわけではありませんが、当館では事務局情報処理課の御助力を得て、本当の素人から理解のできるコンピュータの知識と関連する内容についての講習会を開催することができるはこびとなりました。

期間は昭和56年7月13日（月）から24日（金）までの土・日を除く10日間、場所は附属図書館会議室で、13時30分～17時までと日程も決定しました。

カリキュラムは

1. コンピュータ入門
2. フローチャート
3. COBOLゼネリック となり

館員の中から10名が聴講し、将来オペレータとなるように頑張ってもらうことになっております。

こうして急激に変転しようとしている図書館の周囲の事情を学内の皆様に理解していただく意味で、昭和56年6月3日（水）に各学部の庶務係のお手をわずらわしましたが、「文部広報」第724号の紙面を複製印刷して、お手許にくばらせていただきました。今後共によりしく御協力をお願いして、図書館がこのシステムに対応して乗り遅れなどが起らないようにしていただければと考えております。

実際にスタートするのは4年後になるようですが、私達館員もこのシステムに対応できるよう、予想される業務の検討、機器の想定などにより真剣にあたって行きたいと思っております。そのためにも昨年度までに種々の援助を得て見学して来た先発大学などの事例を多いに参考にして、その知識を十二分に応用できたらと期待しているものです。

最後に前記しました「学術情報センターシステム開発調査概要（昭和55年度）」の全文は字数の関係で転載できないので文部省情報図書館課から通知がありました要旨をお知らせすることにしました。是非お読み願ったらと思います。

# 「学術情報センターシステム開発調査概要」要旨

## 経緯

昭和55年1月の学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」を具体化するため、昭和55年度に学術情報センターシステムについて、大型計算機センター、大学図書館等の学識経験者に、学術情報センターの機能、コンピュータ・システム、ネットワークシステムその他関連する事項についての調査検討を依頼し、その結果が開発調査概要としてとりまとめられた。この調査結果を昭和56年度以降における学術情報センター設置調査及びソフトウェア作成ならびにハードウェアの具体化等に当たっての基礎的資料とするものである。

## 要旨

### 1. 学術情報システムの性格

学術情報システムは、大学等の研究者の要請に応じて、人文・社会・自然科学にわたる学術情報に関する諸資源を共有し、これを相互に有効に利用し、研究・教育の進展に資するという理念に基づくものである。すなわち、多くの大学・研究機関等が保有する資源と、収集、検索、配布等の能力を有機的に統合するネットワーク構造であり、現在すでに個別的に大学等の間において行われているいくつかの情報システムの機能を再編成し、また、図書・雑誌等の目録・所在情報システムを整備して大学図書館業務の合理化等を図る全国的、総合的な大学共同利用の情報システムである。

### 2. 学術情報センターの機能（計画・調整、サービス、研究開発、教育訓練）

学術情報システムを有機的に活動せしめるためには、その中枢機関として学術情報センターを設置し、次の機能を果たさせることとし、所要の組織・機構を整備する必要がある。

- ① 大学等の要請に応じたネットワークシステムの内外にわたる計画・調整
- ② 急激に進歩する情報科学の発展に対応した、学術情報処理に関する研究開発
- ③ 学術情報センターが集中的に担うことが効率的と考えられる二次情報データベース、一次資料目録及び所在情報データベース等の形成、運用、提供
- ④ 各種手引書の作成及び研修会の開催等利用者の教育訓練

### 3. 学術情報センターのコンピュータ・システム

コンピュータ・システムの規模・能力については、処理するデータ量等を勘案した大型機レベルが必要であり、端末装置の標準的仕様の決定やソフトウェア作成の早期着手が必要である。また、接続すべき通信回線網としては、基本的には新データ網が最適である。サービス活動を開始するに至るまでのセンターシステム整備の年次計画としては3カ年程度を要する。

### 4. 学術情報ネットワークの共同利用の在り方

利用者の範囲は、基本的には、大学院生を含む大学等の研究者とし、学部学生も条件つきで認めることが望ましい。利用者の登録は原則として利用者が所属する機関の図書館等とし利用料金については、データベースの種類及び利用者の所在の遠近にかかわらず、なるべく同一料金とすることが望ましい。

## 5. ネットワークシステムの構成等

二次情報等のデータベースによる情報検索ネットワーク（大型計算機センター、国立大学共同利用機関等からなり、比較的単純な構造のネットワーク）と、目録・所在情報の形成とこれに関連する図書館情報処理のネットワーク（大学図書館等からなり、地域の代表的な大学図書館のシステムを中間的に置く多層型ネットワーク）の2種類を有機的に統合したネットワーク構成とする。また、一次情報提供メカニズムの改善方策の研究及び国内外の関連システム（JICST等）との調整・協力を行うことが望ましい。

# JOIS(JICSTのオンライン情報 検索システム)がレベルアップ

すでに蔵本分館で端末機を使ってサービスしているJOISがレベルアップされ、研究者にとってよりよい成果が期待されるようになりました。昭和56年4月6日より、名称もJOIS-IからJOIS-IIへ移行し、下記のように拡充されました。

### 1. データベースの拡張性

今まで最大6データベースであったものが最高99データベース、同時サービス20データベースが可能になりました。今のところ、従来のデータベースに、MEDLARSファイルがMEDLINEファイルに変更し、他に、その補助ファイルとして、JICST資料所蔵目録、MESH医学用語、CHEMLINE化合物、CASEARCH化合物、のファイルがサービスされています。近い将来BIOSIS(生物)、CANCERLIT(がん情報)、CAB(農学)、国内医学文献、INSPEC(電気・電子工学)などのデータベース導入が予定されています。

### 2. 検索機能の充実

- ① 一次・二次検索機能の拡張とタグの増加—前方一致、中間一致、後方一致や、コマンドの種類が増えました。
- ② 質問登録機能—SDI検索、オフサーチの登録など
- ③ 検索補助用ファイルのオンライン参照—検索途中で用語がわからなくなったときに使用します。
- ④ 複写受付機能—オンラインで文献複写を依頼できるようになりました。

### 3. サービス時間

今まで9:45~17:00(但し、12:00~13:00は除く)となっていましたが、今年度から9:30~17:00となり、昼休みも検索することができるようになりました。

### 4. データベースのサービス曜日(表1)

### 5. JOIS利用料金(表2)

料金表の外に、基本料金200円が80円に変更になり、電話料金も60円/分から30円/分に変更になりました。これは、検索手順の変更と、サブセンターの増設のためです。大いに、ご利用ください。また将来DIALOG導入計画も検討中です。情報化社会に即応したサービス体制を整えて行きたいと思っています。

## JOIS 利用時間

(昭和56年4月現在)

サービス時間	月	火	水	木	金
9 : 30           17 : 00	JICST81	JICST81	JICST81	JICST81	JICST81
	JICSTK81	JICSTK81	JICSTK81	JICSTK81	JICSTK81
	JICST7580	JICST7580	JICST7580	JICST7580	JICST7580
	JICSTK7580	JICSTK7580	JICSTK7580	JICSTK7580	JICSTK7580
	JCLEARING JCLEARINGK	JCLEARING JCLEARINGK	JCLEARING JCLEARINGK	JCLEARING JCLEARINGK	JCLEARING JCLEARINGK
	MEDLINE	MEDLINE	MEDLINE	MEDLINE	MEDLINE
	CASEARCH		CASEARCH		CASEARCH
		TOXLINE		TOXLINE	
	JTERM81	JTERM81	JTERM81	JTERM81	JTERM81
	JTERMK81	JTERMK81	JTERMK81	JTERMK81	JTERMK81
JTERM78	JTERM78	JTERM78	JTERM78	JTERM78	
JTERMK78	JTERMK78	JTERMK78	JTERMK78	JTERMK78	
JCATALOG	JCATALOG	JCATALOG	JCATALOG	JCATALOG	
MESH80	MESH80	MESH80	MESH80	MESH80	
CASNAME		CASNAME		CASNAME	
	CHEMLINE		CHEMLINE		

## データベース名称

JICST81	:JICST科学技術文献 ファイル81年分(カナ)	JTERM81	:JICST科学技術用語シソーラ スファイル81年版(カナ)
JICST7580	:JICST科学技術文献 ファイル75~80年分(カナ)	JTERM78	:JICST科学技術用語シソーラ スファイル78年版(カナ)
JCLEARING	:JICST科学技術研究情報ファ イル(カナ)	JCATALOG	:JICST資料所蔵目録ファイル
MEDLINE	:MEDLINE医学文献ファイル	MESH80	:MESH医学用語ファイル80年版
CASEARCH	:CASEARCH化学文献ファイル	CASNAME	:CASERCH化合物ファイル
TOXLINE	:TOXLINE毒性文献ファイル	CHEMLINE	:CHEMLINE化合物ファイル

JICSTK, JCLEARINGKおよびJTERMKは漢字ファイルです。

表 2

## JOIS利用料金

データベース名	ファイル接続料金		オフライン料金			
	旧料金	新料金	手配料	旧回答出力料金	回答出力料金	
					Aタイプ (抄録つき)	Fタイプ (KWつき)
JICST	180円/分	210円/分	旧料金 と同様 500円/回	15円/件	35円/件	17円/件
JCLEARING	180円/分	210円/分		15円/件	17円/件	17円/件
MEDLINE	180円/分	210円/分		15円/件	35円/件	17円/件
CASEARCH	297円/分	327円/分		39円/件	—	49円/件
TOXLINE	250円/分	280円/分		22円/件	43円/件	25円/件
JTERM		210円/分				
JCATALOG		210円/分				
MESH		210円/分				
CASNAME		327円/分				
CHEMLINE		377円/分				

平均15%くらい料金が上がることになります。

## SDI料金（1質問当り）

データベース名	基本料	回答出力料	検索回数
JICST	1,630円/回	35円/件	1回/月
MEDLINE	1,630円/回	35円/件	"
CASEARCH	1,380円/回	49円/件	2回/月

56年から新しくサービスされる業務で、SDIサービス（選択的情報提供）が、オンラインで申込むことができるようになりました。

この基本料金は、

検索料+質問登録料金+手配料で

JICST, MEDLINEは、 $210(\text{円}) \times 3(\text{分}) + 25(\text{円}) \times 20(\text{日}) + 500(\text{円}) = 1,630$

CASEARCH  $\frac{210}{327}(\text{円}) \times 3(\text{分}) + 25(\text{円}) \times 10(\text{日}) + 500(\text{円}) = 1,380$  です。

## その他のオンライン料金

項 目	料 金
質問登録料金（1質問当り）	25円/日
オンライン複写申込接続料金	90円/分
会話退避料金	360円/回





文 献 複 写 (枚数)

(昭和55年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
文 献 複 写	教 職 員	56,585 枚	62,496 枚	119,081 枚
	学 生	2,337	5,228	7,565
	そ の 他	6,175	15,025	21,200
	計	65,097	82,749	147,846

相 互 利 用 (人数)

(昭和55年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
相 互 利 用	教 職 員	351 人	1,013 人	1,364 人
	学 生	28	132	160
	そ の 他		1,493	1,493
	計	379	2,638	3,017

相 互 利 用 (件数)

(昭和55年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
相 互 利 用	教 職 員	1,537 件	1,703 件	3,240 件
	学 生	87	203	290
	そ の 他		2,413	2,413
	計	1,624	4,319	5,943

参 考 調 査 (人数)

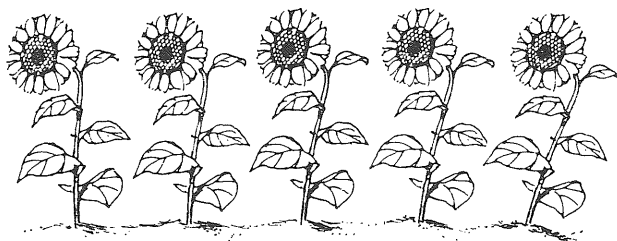
(昭和55年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
参 考 調 査	教 職 員	2,005 人	3,767 人	5,772 人
	学 生	1,652	2,071	3,723
	そ の 他		11	11
	計	3,657	5,849	9,506

参 考 調 査 (件数)

(昭和55年度)

		附属図書館(本館)	分 館	計
参 考 調 査	教 職 員	3,236 件	5,104 件	8,340 件
	学 生	1,840	2,678	4,518
	そ の 他		27	27
	計	5,076	7,809	12,885



## 今秋 当学で図書館研究集会開催

昭和56年11月18日(水)から三日間、徳島大学が当番館となる第22回中国・四国地区大学図書館研究集会を、新装なった眉山会館を会場として開催されます。

この研究集会には地区内37大学の実務担当者が一堂に会して、活発な討議と、懇親の場をもった意義ある集会として他地区からも注目の的となっている会合で今回で第22回目を迎えようとしています。

今回は「情報化社会の中の大学図書館の将来像を探る」をメインテーマにして、京都産業大学教授小野泰三氏の基調講演のあとに三つの分科会をもち、I 情報検索、II 整理(目録)業務、そしてIII コンピュータをこれから導入するまえにどのようにすればよいか。という内容の討議を考えております。

この研究集会の開催にあたっては学内学部からの援助をいただき、我々当番館としても意義ある研究集会となるよう一層の努力で結実させようと計画をすすめている今日この頃です。  
(助岡記)

## 徳大生の読書と図書館感

教養部が、一般教育の改善と充実をはかる目的で、全教官、全学生に対して調査を行っていた結果が「徳島大学における一般教育改善のためのプロジェクト報告書」として56年3月に刊行されました。

読書及び図書館利用という項について抜粋してみました。

読書については、活字離れの一般的風潮に反して、意外にも、読書「好き」(60.3%)と出たが、本音とたてまえの事もあり、内実としては、必ずしも手放しでは喜べない。「嫌い」と答えた者は、全対で6.9%男女別では、男9.1%女2.7%となっている。

読書の好き嫌いと同月間読書量との関連についてみると「好き」な者のうち、78%が月に

1～5冊しか本を読まないという事は、大学生としては、読書量が極めて少ないと言わざるを得ない。「嫌い」と答えた者のうち、半数以上の66.5%が月に1冊未満しか読んでいない。

読書傾向としては、現代性、大衆、通俗性に、かなり傾斜した多様化の様相を示しており、テレビや映画のマスメディアと不可分なベストセラーが大半である。

大学図書館の利用については、一週間当たり平均一日弱入館しその際には、1～2時間滞在して、1～2冊の本を利用しているというのが平均的な学生像である。8人に1人は図書館を訪ねた事がない。

色々な方面の資料も多くあります。是非一度図書館に足を運び、資料を活用して下さい。

## 会 議

附属図書館運営委員会(昭和55年度第7回～第9回)

・第7回 昭和56年1月26日(月)(於 附属図書館)  
議 題

1. 昭和55年度予算節約額について
2. 図書館経費の中間報告について

・第8回 昭和56年2月16日(月)(於 蔵本分館)  
議 題

1. 昭和55年度外国雑誌購入費の配分について
2. 昭和56年度外国雑誌購入費について

・第9回 昭和56年3月16日(月)(於 附属図書館)  
議 題

1. 昭和56年度外国雑誌購入費について(継続)
2. 昭和57年度概算要求事項等について

附属図書館運営委員会(昭和56年度第1回～第2回)

・第1回 昭和56年4月27日(月)(於 附属図書館)  
議 題

1. 附属図書館の本年度運営方針について
2. 本館書庫の増築について

・第2回 昭和56年5月25日(月)(於蔵本分館)  
議 題

1. 昭和55年度附属図書館経費決算書について

2. 昭和56年度附属図書館経費所要額について

出張

(昭和55年12月1日～昭和56年5月31日)

- 2月12日 JOIS-II研修会  
 ～13日 (於 高松市四電ビル別館)  
 出席者 蔵本分館運用係長 近藤 英子  
 蔵本分館運用係 村田 康彦
- 3月6日 電算化先行大学図書館見学  
 (於 香川大学附属図書館)  
 見学者 受入係長 河田 政雄  
 運用係長 芳川 詩  
 運用係 元山 光代  
 蔵本分館整理係長 桜木 強  
 蔵本分館受入係 上田 智一
- 3月12日 第22回中国・四国地区大学図書館研究  
 集会事務打合せ  
 (於 広島大学附属図書館)  
 出席者 総務係長 福家 健二  
 整理係長 助岡 君二
- 3月24日 事務打合せ  
 (於 千葉大学附属図書館)  
 出席者 総務係長 福家 健二
- 3月26日 電算化先行大学図書館見学  
 (於 横浜国立大学附属図書館)  
 見学者 蔵本分館運用係長 近藤 英子

来館者

(昭和55年12月1日～昭和56年5月31日)

- 12月4日 新潟大学附属図書館旭町分館  
 整理係長 長 みち子氏  
 運用係員 樋熊須美子氏(蔵本分館へ)
- 12月4日 国立国会図書館逐次刊行物部  
 国内逐次刊行物課

国際登録係 川添登美夫氏

- 1月27日 千葉大学附属図書館  
 運用係長 長島 重俊氏
- 2月2日 図書館情報大学  
 会計課長 古川 忠氏  
 施設係長 新井 勝利氏
- 2月13日 農林水産省統計情報部  
 図書資料室 古江 義賢氏外4名
- 2月19日 横浜国立大学附属図書館  
 運用係長 檜垣 正也氏  
 整理係 岡田 叡二氏
- 2月20日 愛媛大学附属図書館医学部分館  
 運用係 福原 偵次氏
- 2月24日 山形大学附属図書館  
 管理係長 青山 栄一氏

人事往来

(昭和55年12月1日～昭和56年5月31日)

- |     |       |                     |           |
|-----|-------|---------------------|-----------|
| 採用  | 沖津みどり | 蔵本分館運用係             | 56. 2. 2  |
|     | 笹井 知子 | "                   | 56. 4. 13 |
|     | 澤口恵里子 | "                   | 56. 4. 13 |
| 退職  | 加藤 真弓 | 蔵本分館運用係             | 55.12.27  |
|     | 江西 美代 | "                   | 56. 3. 24 |
|     | 福原 三世 | "                   | 56. 3. 24 |
|     | 向井 克明 | "                   | 56. 3. 31 |
| 配置換 | 村澤 知治 | 工学部会計課 <sup>係</sup> | 56. 4. 1  |
|     |       | (総務係から)             |           |
|     | 福島 潤  | 総務係                 | 56. 4. 1  |
|     |       | (医学部附属病院用度係から)      |           |
|     | 吉田 敬治 | 蔵本分館運用係             | 56. 4. 1  |
|     |       | (教育学部会計係から)         |           |

## 目 次

私の図書館利用 ..... 1 芽ぶきはじめた図書館の電算化 ..... 3 「学術情報センターシステム 開発調査概要」要旨 ..... 4 JOIS(JICSTのオンライン情報 検索システム)がレベルアップ ..... 5 図書館統計 ..... 8	今秋、当学で図書館研究集会開催 ..... 10 徳大生の読書と図書館感 ..... 10 会 議 ..... 10 出 張 ..... 11 来 館 者 ..... 11 人 事 往 来 ..... 11 編 集 後 記 ..... 12
--	--

## 開館時間

授 業 期		休 業 期	
月 ~ 金	土	月 ~ 金	土
9時～20時	9時～16時30分	9時～17時	9時～12時30分

## ♣ 文化行事の予告 ♣

昭和56年11月11日(水)～~~18~~<sup>17</sup>日(火)

「郷土資料関係について」

場 所 本館視聴覚室  
日曜は一般公開

## 編集後記

洪水のごとき、情報量の氾濫する社会、その現実には、図書館がどのように対処していくべきか、種々の問題提起に左右されながらも情報化社会に即応した図書館作りを、企画・検討し、努力している昨今である。

本号は、そういった意味で、学術情報センターシステム、図書館業務の電算化等の企画を特集したのである。

新しい図書館、それは、その時代とともに歩み、学習、研究の向上、発展のために、よりよいサービスに努めることではないだろうか。

---

編集：発行      徳島大学附属図書館  
 (〒 770)      徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島 (0886) 23-2310 内線 (338)